

こもれび

宮城教育大学附属図書館ニュース

121号

2012. 3. 12 発行



表紙イラスト制作：久保さつきさん（美術サークル）

今回は、宮教大の美術サークルに表紙イラストの提供をお願いしました。

今後も、学内のサークルのみなさんの作品を紹介していきたいと思います。

新1年生のみなさんへ ～これだけは読んでおいてほしい本～

○図書館からのインフォメーション・・・・・・・・・・・・・・・・	2～3
○特集記事「新1年生のみなさんへ ～これだけは読んでおいてほしい本～」・・・・・・	4～5
○学生の読書室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6～8
○私と図書館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9～11
○平成24年度開館カレンダー・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12



図書館からのインフォメーション

♪ ご卒業おめでとうございます ♪

卒業される皆さんに図書館からのお願いです。

図書館から借りた資料は必ず在学中にご返却下さい。

お手元に図書館の資料はありませんでしょうか？

また、図書館からの督促状などは届いておりませんか？

今一度、お手元をご確認ください。



♪ 卒業後も図書館は利用できます ♪

卒業生の皆さんに図書館からのお知らせです。

卒業生の皆さんも宮教大の図書館が利用できます。

卒業後は学外者となりますので、来館時にカウンターで受付をしてください。

資料の貸出を希望する場合には、利用登録が必要です。住所が確認できる身分証明書をお持ちください。希望者には「図書館利用証」を発行いたします。

貸出冊数は5冊まで、貸出期間は2週間となりますので、ご注意ください。

詳しくは、カウンターでお尋ねください。



ご入学おめでとうございます

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

授業の空き時間、時間があるのだけれど…どこで過ごそう？

お昼は生協がすごく混んでるし…どこかゆっくりできる所は？

そんな時には、図書館にいらしてください。

飲食の可能なリフレッシュコーナーがあります。

授業期間中、夜10時まで使えるパソコンがあります（マルチメディア室）。

また、図書館では、館員の説明による図書館ツアーや
新入生ガイダンス・各種データベースの講習会なども行います。

興味のある方は、カウンターにお尋ねください。

お待ちいたしております。



学部1～3年生の皆さん!! たくさん本が借りられるようになります!

《平成24年4月から貸出冊数・貸出期間が変わります》

現在、学部1～3年生は、貸出冊数5冊、貸出期間2週間ですが、平成24年4月から貸出冊数が10冊に、貸出期間が1カ月に、変わります。これを機会により多くの本に親しんでください。

季節のいろいろ

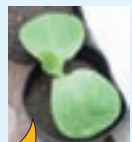
色々なことのあった一年ですが、季節の行事などとともに、ちょっとだけ宮教大の図書館の一年を振り返ってみたいと思います。



七夕。 7月から8月にかけて館内に竹を飾り、短冊を用意しました。
短冊に書いた願い事は叶いましたか?



ハロウィン。 今年は、種から育てたハロウィンカボチャを飾りました。“Trick or treat”
ハロウィン当日にはお菓子を用意しました。
お菓子はもらえましたか?



クリスマス。 今年も、山から切り出したもみの木に飾り付けをしました。
クリスマス気分を味わってもらえましたか?



来館者の少ない夏休み中に
リフレッシュコーナーの
リニューアルも行いました。
心地良く過ごせるよう
になりましたか?

特集記事

新1年生のみなさんへ

～これだけは読んでおいてほしい本～

新1年生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

これから始まる授業、大学生活に向き合うために、ぜひ読んでおいてほしい本を、先生方に推薦していただきました。
ここに掲載された本は、今後、図書館の「読書のすすめ」コーナーに並べられる予定です。

(先生のお名前の並びは順不同です)

■国語教育講座

木下 ひさし 先生

タイトル：子どもとことば

著者：岡本夏木

出版社：岩波書店（新書）

出版年：1982年

コメント：子どもはことばをどのように獲得していくのか。子どもとことばについての分かりやすい基本図書。

渡辺 善雄 先生

タイトル：増補 遅読のすすめ（ちくま文庫）

著者：山村修

出版社：筑摩書房

出版年：2011年

コメント：情報を得るための読書と違い、文学などはゆっくり味わって読むべきであることを理論的に解明した本です。

■社会科教育講座

川崎 惣一 先生

タイトル：シーシュポスの神話

著者：アルベール・カミュ

出版社：新潮文庫

出版年：1969年

コメント：一度きりの人生だからこそ、人は「生きることの意味」を求めます。若いうちに一度読まれるべき本です。

■数学教育講座

萬 伸介 先生

タイトル：算数の先生

（ちくま学芸文庫ク-20-1）

著者：国元東九郎

出版社：筑摩書房

出版年：2011年

コメント：最近、版を改めて出版された本です。教師と子供達の算数（数学）のやりとりが魅力的に記述されております。

■理科教育講座

内山 哲治 先生

タイトル：物理学者はマルがお好き

（ハヤカワ文庫）

著者：ローレンス・クラウス

出版社：早川書房

出版年：2004年5月25日

コメント：物理の心を知りたくなった時、または、なにを間違ったか物理好きの人を恋人にしまった時に読む本

■音楽教育講座

小畑 千尋 先生

タイトル：声と日本人

著者：米山文明

出版社：平凡社

出版年：1998年

コメント：発声法、日本語と声、声の障害などについて音声言語医学の立場から書かれた本。教員志望者にとって必読書。

應和 恵子 先生

タイトル：池上彰の宗教がわかれば世界が見える（文春新書）

著者：池上彰

出版社：文藝春秋

出版年：2011年

コメント：国際情勢に深く関係している世界の宗教についてのわかりやすい入門書。大学生なら知っておいてほしい常識。

吉川 和夫 先生

タイトル：楽典 新訂

著者：池内友次郎、外崎幹二

出版社：音楽之友社

出版年：1951年

コメント：音楽の基礎理論や約束事を記した必携本。多くの著者が執筆しているので、自分に合った1冊を手元に置こう。

小塩 さとみ 先生

タイトル：呼吸する民族音楽

（小泉文夫著作選集2）

著者：小泉文夫

出版社：学習研究社

出版年：2003年（初版は青土社から1983年）

コメント：自分の音楽の世界を広げるための絶好の入門書です。国際理解や地域文化に興味のある人にもお勧めの本です。

原田 博之 先生

タイトル：アサーショントレーニング

ーさわやかな〈自己表現〉のためにー

著者：平木典子

出版社：金子書房

出版年：1993年

コメント：アサーションとは、お互いを大切に、率直かつ素直にコミュニケーションすること。新生活を迎える皆さんに！

■美術教育講座

浅野 治志 先生

タイトル：あなたは誰？ 私はここにいる
(集英社新書)

著 者：姜尚中

出 版 社：集英社

出 版 年：2011年

コメント：「日曜美術館」の司会を務めた著者。
一枚の絵、一点の作品、から受ける感
動の素晴らしさを伝えてくれる一冊。

■技術教育講座

岡 正 明 先生

タイトル：日本の農業を考える
(岩波ジュニア新書)

著 者：大野和興

出 版 社：岩波書店

出 版 年：2004年

コメント：生物育成技術の学習の基礎となる食
料問題・食の安全・環境問題などに
ついて、やさしく書かれています。

草 野 清 信 先生

タイトル：ドイツは脱原発を選んだ
(岩波ブックレット No.818)

著 者：ミランダ・A・シュラーズ

出 版 社：岩波書店

出 版 年：2011年

コメント：原発なしでもエネルギー供給に支障
なし。やればできる。自然エネ
ルギーに軸足を切り替えたドイツに学
ぼう。

小 野 元 久 先生

タイトル：下町ロケット

著 者：池井戸潤

出 版 社：小学館

出 版 年：2010年

コメント：東京大田区の町工場、中小企業と大
企業など現代の日本のものづくり業
界の一面が描かれています。面白い
小説です。

水 谷 好 成 先生

タイトル：ナッチャン 1～21
(集英社ジャンプコミックスデラックス)

著 者：たなかじゅん

出 版 社：集英社

出 版 年：2000～2007年

コメント：できそくない機械の開発や修理を鉄
工所の女の子が工夫と努力で解決す
る。あきらめない気持ちをもらえる。

安 藤 明 伸 先生

タイトル：創るセンス 工作の思考
(集英社新書)

著 者：森博嗣

出 版 社：集英社

出 版 年：2010年

コメント：「ものをつくること」を教える前に
持っておきたい思考やセンスについ
て具体的にわかりやすく書かれてい
ます。

■英語教育講座

藤 田 博 先生

タイトル：大聖堂（上・中・下）（新潮文庫）

著 者：ケン・フォレット

出 版 社：新潮社

出 版 年：1991年

コメント：のめり込むようにして読めるものに
出会うことが、本好きになる第一歩。
とすれば、これ、これ以外にありま
せん。

■幼児教育講座

佐 藤 哲 也 先生

タイトル：幼稚園真諦

著 者：倉橋惣三

出 版 社：フレーベル館

出 版 年：2008年

(初版は1953(昭和28)年出版)

コメント：誉れ高い幼児教育の名著です。「真
諦（シンテイ）」とは「絶対的・究
極の真理」という意の仏教用語です。

■学校教育講座

越 中 康 治 先生

タイトル：窓ぎわのトットちゃん

著 者：黒柳徹子

出 版 社：講談社

出 版 年：1981年

コメント：私は高校時代、この本の「小林先生」
に憧れ、幼児教育を学びたいと思う
ようになりました。今でも憧れます。

久 保 順 也 先生

タイトル：「科学的思考」のレッスン

著 者：戸田山和久

出 版 社：NHK出版

出 版 年：2011年

コメント：大学で心理学を学ぶにあたり、科学
的思考とはどういうものかを是非
知っておいてもらいたいと思います。

田 端 健 人 先生

タイトル：いじめの構造
ーなぜ人が怪物になるのかー
(講談社現代新書)

著 者：内藤朝雄

出 版 社：講談社

出 版 年：2009年

コメント：被害者を逃げ場のない苦悩と絶望に
陥れるいじめ。様々な事例からその本
質構造に新たな枠組みで迫る話題作。

本 田 伊 克 先生

タイトル：教師のしごと

ー泣いて、笑って、ちょっぴり元気ー

著 者：佐藤隆、山崎隆夫ほか

出 版 社：旬報社

出 版 年：2012年2月1日

コメント：若い先生が何に苦しみ、何を喜びや
生きがいとしながら子どもと日々向
き合っているのかの実践記録集。

第16回 学生の読書室 ～私が選ぶこの一冊～



『頭がよくなる 知的生産の技術』

(三木光範著、中経出版、2010年)

初等教育教員養成課程 情報ものづくりコース3年：阿部友耶

現代では次々とムダを省いて効率化していこうというような風潮が高まってきています。しかし、果たして効率化だけで全てが上手くいくのでしょうか。本書ではそんな疑問に対して、双方の最適なバランスを見つける最適化という方法を提案しています。一見省きたくなるような「ミス・ロス・ムダ」も考え方によっては、新たな発見の近道へと繋がっていることもあるのです。表紙をみると「なんだか難しそうなが書いてあるのだろうな」と少し手に取るのを躊躇ってしまうかもしれませんが、一度中を覗いてみると絵も多く掲載されており、「意外と自分にも読めるかも」と思えるかもしれません。読み終えた後には、自分自身の“今”そして“これから”を今一度考えてみようと思えるような1冊です。



『男の品格 高く、そして潔く』

(川北義則著、
PHP研究所、2006年4月28日)

中等教育教員養成課程
技術教育専攻3年：
板垣翔大



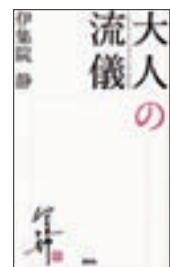
『今、日本の男たちに足りないもの、それは、「遊び心」ではないだろうか。最近、私はつくづくそう思う。』このような書き出しで始まるこの本は「遊び心」をテーマに仕事・家庭・恋愛・趣味・美学・人生観などの観点から、男の生き方や在り方についてアプローチしています。私もこの本を読み、共感できることや「なるほど」と思うこと、はっとさせられることなど、いろいろなことを見付けました。そして、筆者が『仕事上手になりたければ遊び上手になれ』と言っているように、例えどんなに嫌なことをするにしても、その中に遊びや楽しみ、目的を見付けることができるようになりました。

『趣味にしても道楽にまでなれば、面白みが出てくる。恋愛も修羅場を経験すれば、もっと男は成長する。遊び心は、仕事にも、人生を豊かにするために必要である。』みなさんもこの本を読んで、「男の品格」について考え、「カッコいい」、「モテる男」になってみませんか？

『大人の流儀』

(伊集院静著、
講談社、2011年3月18日)

初等教育教員養成課程
情報・ものづくりコース3年：
柴洋平



春、夏、秋、冬。日本には四季がある。この本は、人生で繰り返される春夏秋冬の中で、著者が「人として」、「大人として」、季節の分岐点をどのように通過してきたかが書かれている。大好きな人に手紙を書きたくなったとき。上司に意見をしなければならぬとき。人を叱らなければならぬとき。嫌でもケンカをしなければならぬとき。大切な人を失ってしまったとき。とてつもない悲しみに包まれたとき。このようなとき、「大人ならどう考え、どう振る舞うのだろうか」ということを考えさせられ、自問自答と著者との対話をしているように時間を過ごさせてくれる本である。そして、大女優である夏目雅子を妻に持つ著者が、「大人として」妻の死後を語った最初の一冊でもある。

著者は仙台市在住であり、同市在住であれば、より一層親近感や親しみやすさがもてるのではないだろうか。みなさんも「本物の大人」について考え、大人の振る舞いを目指してみてもはどうでしょうか？

『ミーナの行進』

(小川洋子著、中公文庫、2009年6月25日発行)

初等教育教員養成課程音楽コース2年：太田陽子

ミーナ。ミーナがミーナである証拠を示そうとするならば、マッチで美しい火を点すことのできる少女、と言わなければならない。

ミーナが愛したのはマッチ箱に描かれた絵だった。その絵から彼女の心は遠い世界へと誘われていく。“マッチ箱の箱”にはたくさんの物語がミーナによって書かれている。そのマッチ箱の物語はミーナの心の世界であり、この本の中でいくつか出てきては読者の心に静かに広がっていく。

この本には格別珍しいことなど出てこない。豪邸に住んでいようと、コビトカバのポチ子に乗ってミーナが毎日登下校していようと、マッチ箱を集めていようと、それはごく当たり前のことのよう読者の心とリンクする。淡々と描かれる日常は、読み終わった後もどこかで息づいている。

「全員揃ってる。大丈夫。誰も欠けてない。」

ミーナの家族と過ごす朋子の言葉であるが、きっと読み終えた時にはあなたの言葉となっていることだろう。あなたの心の本棚に一冊、温かな光を携えたこの本を、そっと加えてみてはいかがだろうか？



『仏果を得ず』

(三浦しをん著、
双葉文庫、2011年発行)

中等教育教員養成課程
音楽教育専攻1年：
佐々木綾奈



文楽を知っているあなたも知らないあなたも、一遍読んで下さんせ。あつという間に魅せられること間違いなし！

「人形浄瑠璃」「文楽」と聞いて皆さんはどんな印象を受けるだろうか。伝統芸能はとっつきにくい、わかりにくいと感じていた私はこの本で一気に文楽の虜となった。

この本の主人公は、高校生の頃に観劇した文楽に魅了され、ついにはその門をたたき、修行に邁進する日々を送っている。そんなある時、一人の女性に恋をする。芸か恋か悩む彼の姿と、文楽の『仮名手本忠臣蔵』の登場人物の心情がシンクロしながら物語は進んでいく。

文楽は才能と実力の世界。自分の芸に厳しくなければ、人を感動させることはできない。芸の道に生きる青年の迷いながらも前向きに精進する姿を通し、伝統芸能の奥深さとそこに生きる人々の心意気を知り、日本には文楽という素晴らしいエンターテインメントがあることを教えられた。

加えて、三浦しをんのエッセイ『あやつられ文楽鑑賞』（双葉文庫、2011年）をお薦めする。これはぜひとも文楽を観なくては！という気持ちにさせられる。

『チーズはどこへ消えた？』

(Spencer Johnson, M.D. 著、門田美鈴訳、
扶桑社、2000年11月30日発行)

初等教育教員養成課程
数学コース3年：
味水佳織



この物語に登場するのは2匹のネズミのスニックとスカリーと、2人の小人のヘムとホーです。2匹と2人は「迷路」のなかに住み、「チーズ」を探します。「チーズ」とは私たちが人生で求めるもの。つまり、仕事や財産、地位、恋人などの象徴を表します。「迷路」とはチーズを追いもとめる場所。つまり、学校や地域社会、会社、家庭などの象徴です。

チーズを追いもとめたり、失ったりするなかで、性格の違う2匹2人はそれぞれ違った行動をとります。実は2匹と2人の性格は私たち人間のなかにある単純さと複雑さを表しています。私たちは、スニックのようにいち早くチャンスをかぎつけることもあるし、スカリーのようにすぐさま行動を起こすこともあるし、ヘムのようにいっそうまづいことになりやしないかと怯えて、変化を認めず、変化に逆らうこともあるし、ホーのようにもっといいことがあるに違いないとうまく変化の波にのろうとすることもあります。

この本を読んで、自分の「チーズ」を再確認し、少し違った視点からものごとをみることができました。読む人によって得るものは違うこの本。一度読んでみてください。

『賢治先生』

(長野まゆみ著、河出文庫、2003年12月発行)

中等教育教員養成課程家庭科専攻3年：大友 悠莉子

窓の外には電信柱が並び、架線で結ばれています。交叉する電燈の信号は、蒼白い火花を散らします。そのひとつひとつの流れは独立した軌道を持ち、ほかの流れとまじりあうことはありません。けれども、長い長い旅のあいだ、ごく稀に、ならんで疾ることがあります。その交流を、遺瀨ない思いをこめて生涯と呼ぶ人々がいます。(本文より)

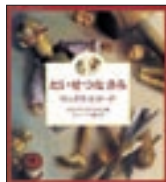
生きる、ということは多かれ少なかれ人と人との出会いや別れを含んでいます。タイトルにある賢治は、かの『銀河鉄道の夜』の著者としても有名な宮沢賢治がモデルとなっていますが、彼は物語の中トシを探しに乗り込んだ汽車の中で様々な人々と出会い、そして別れます。その出会いと別れによって何かが劇的に変わるわけでもなく、賢治も出会いを喜んだり別れを惜しんだりするわけでもない。そんなありふれた人々の交流が、作者の特徴的な旧仮名交じりの文章で、所々に詩をはさみながら淡々と綴られています。月並みな言葉ですが、何気ない日々の一瞬一瞬を儚く愛おしく感じられる心呼び起こしてくれる作品です。



『たいせつなきみ』

(マックス・ルケード著、セルジオ・マルティネス絵、ホーバード・豊子訳、いのちのことば社、1998年発行)

初等教育教員養成課程
音楽コース1年：
品田 謙 仕



あるところにエリという彫刻家によって作られた木のこびとたちが同じ村に住んでいた。この村ではシールのくっつけあいをしていて、きれいだったり才能があったりする人はお星さまシール、見た目が悪かったり才能がなければだめじるしシール。

主人公のパンチネロはだめじるしシールだらけのこびと。頑張っても失敗するのでだめじるしが増える。そんなある日パンチネロはシールを何もつけてないこびとに出会う。だめじるしもどこかお星ささえも……

人の評価を気にしてばかりで心が疲れた。そんな時にお勧めする絵本である。絵本だからと言ってバカにしていけない。人の評価よりも大事なもの… それに気づかされる。よくあるありきたりな話に思えるかもしれない。でも非常に大切なメッセージがそこにはある。ぜひ一度読んでみて作者が本当に伝えたいことはなにか少し考えてほしい。

この絵本はシリーズなので興味がある人は続きを読んでみてください。

『少年少女日本文学館第一巻 たけくらべ・山椒大夫』

(樋口一葉、森鷗外、小泉八雲、講談社、1986年)

中等教育教員養成課程
音楽教育専攻2年：
丹野 聡 子



この本は、明治を代表する3人の作家の作品が集められた1冊です。

ここでは森鷗外の『山椒大夫』を一部紹介します。父を訪ね歩き続ける母子と女中。日が暮れたが村の掟により宿も借りられず野宿することになったが、旅人へ宿を貸しているという男が現れたためついていく。粥や寝床を与えられ大いに感謝した。しかし翌朝、その男に案内された船に乗ったところ母・女中と子2人は引き離されてしまう。人買い。子2人は山椒大夫という男の元へ売られ奴隷としての生活が始まる。優しい人に出会い辛い生活に耐え、策を練り、慰め合い必死に生きる2人。生き別れた母と父を思い、成長した2人はついに行動に出る…

明治と言えば世の中の様子も現代と違い、文章中の言葉も難しく読みづらいかもしれませんが、この本には難しい語句や事項に解説があります。言葉づかいや言い回しが難しい部分もありますが、完全に訳されていないからこそ現代の作品とは違った味わい深さがあるのではないかと思います。

大学を卒業するまでに、是非この時代の作品に触れてみてください。

【原稿を募集します】

ここは学生のみなさんにお薦めの本を紹介してもらうコーナーです。みなさんからの投稿をお待ちしています。以下の必要事項を記入の上、いずれかの提出方法をお選びください。

■必要事項

- ・専攻・学年・お名前・連絡先
- ・紹介したい本のタイトルとその著者名・出版社
- ・紹介文(400字程度)

■提出方法

- ・メールの場合は toshokan@staff.miyakyo-u.ac.jp まで
- ・US B等の場合は 図書館カウンターへ

■注意事項

- ・こもれび次号は7月発行です。
- ・原稿はこもれび編集委員会で選定の上、掲載します。
- ・採用された原稿は図書館ホームページにも掲載されます。

『私と図書館』

「電子化もいいけれど…」

黒川 修 行

研究遂行にあたって、様々な種類の科学雑誌に目を通すことが必須となっている。私が大学院生だった頃は、図書館に通い、必要な論文をコピーして、研究室に持ち帰り、辞書を片手にひたすら読み続ける日々が続いていた。研究分野の関係上、医学雑誌が中心である。そもそも医学など勉強したことがなかったので、再び図書館に戻って、読んでいた論文に関する専門書で基本事項（と思われる）内容を確認していた。当時のいた研究室から図書館まで少し距離があることから、移動に時間を費やしていた（が、今考えると適度な身体活動量確保の時間だったかも知れない）。

今では、Webを介した検索エンジンが充実し、電子ジャーナルも多数発刊されている。研究室にしながら、目的とする論文にダイレクトにアクセスすることができる。場合によっては、著者に直接メールを送り、論文のPDFを送信してもらい、分からない用語があったらすぐ検索できる等、様々な面で電子化、効率化が進み、スムーズに物事を進めることができるようになった。

その半面、電子ジャーナルを使うようになって、私が今読んでいた論文の「前のページ」とか、「次のページにある」論文にまで、なかなか目を通さなくなってしまった。そして「たまたま隣にある雑誌や本」を読む機会も減ってしまった。そんなに多々あることではないが、たまに自分が読んでいた論文の「前のページ」に面白い記事があったり、「たまたま隣にある雑誌」に研究のアイデアをくれる話が載っていたりする（実際、私の博士課程の研究の一部はそのようなところから生まれた）。PDFで送られてくる論文も、ちょっと前まで論文の別刷り（抜き刷り）と呼ばれていたものを著者が送ってくれた。インドから届いた別刷りと封筒はカレーの香りがほんのりと残っていたことを思い出す。

そんなことを思いつつ、ご無沙汰してしまった図書館に行ってみようと思う。それにしても、十数年ぶりに入る宮教の図書館はとてもきれいだ。

(保健体育講座)

地域と学校でつくるもの！

佐々木 博 明

先日、「教室に眠る善意の本」という見出しの新聞記事が目にとまった。財政面から村には図書館がなく、「子どもの感性を育てたい」との願いから、全国に本の寄付を呼びかけた。すると、全国から届けられた本は6万冊。職員総出で仕分けし、各小中学校の文庫へ入れ替え制で配置する予定だった。しかし、震災で村全体が避難を余儀なくされ、計画実現は不可能に…。この記事から地域の人々の子どもたちへの熱い思いが伝わってきた。

今、学校でも図書担当の先生を中心に、子どもたちの豊かな人間性や望ましい読書習慣の育成に向けていろいろな取組が行われている。かつてわたしが勤めていた学校でこんなことがあった。「先生、子どもたちに本を読んでもあげたいのですが？」という教え子の母親からの声。その頃は地域の方々に対して協力を依頼することが今ほど多くはなかったように感じる。そんな中、始まったのが「お話会」だった。絵本や物語、時には手作りの紙芝居なども読んでいただいた。放課後、ランドセ

ルを背負ってぞくぞくと集まっては今か今かと待つ子どもたちの姿があった。お話会が開かれる日の帰りの会では、始まる時刻を気にしてそわそわ落ち着かない様子。当然、教師の長話は御法度！である。このお話会は、十年たった現在も続いており、学校の図書館教育の内容に位置づけ、子どもたちを楽しませている。保護者の声から始まった「お話会」。子どもの読書活動への影響は？というところ、集まってくる子どもたちの笑顔がすべてを語っているのかもしれない。

本の並べ方や掲示物の工夫、本の案内や新刊の紹介、そしてゆったりと本が読めるサロン風スペースづくりなど読書指導での図書室の役割は大きく、教師たちのアイデアも様々だ。その中で、地域の人々の思いや願いが「連携」という形で実際に動き出していくことが、子どもが楽しめる図書室づくりの可能性を広げることにつながるように思う。

(教職大学院)

私と図書館 遠山 勝治

私たちは、家庭、職場、地域等、様々な集団に所属しながら、その集団の構成員と何らかの交流をしながら生活しています。そして、多くの場合、それらの交流を通して、自らの心のエネルギーを充電しています。また、新たな交流に出会うために、意識的にサークル活動に参加したり、旅に出たりします。たまたま参加した酒席や集会で、思いがけずすばらしい出会いがあり、その出会いに感謝したりもします。

最近の若者は、直接的な出会いに自信がもてないのか、インターネットを通じて匿名性の中での新しい出会いを求め、事件・事故に巻き込まれるケースが数多く報告されています。特に、家庭内や学校で十分な心の交流をもつことができない子どもたちが心の安定を求め、危険があることを知りながらも、そのような世界に自ら身を投じていくようです。

昨年3月の震災後、仮設住宅等に住むことを余儀なくされた人々のなかには、急激に変

化したコミュニティの中で、新たな人間関係に馴染めず、孤立し自ら命を絶った方もいます。しかし、新しいコミュニティの中で、お互いに支え助け合いながら、新たな信頼関係を構築し、大変な状況の中でも楽しく生活している方々がほとんどです。

このように私たちは周囲の人々と、支え合ったり認め合ったりしながら、様々な交流を繰り返し、自分の存在を確かめながら生きています。

読書というものは、自ら手を伸ばしさえすれば、数え切れない出会いを私たちに提供してくれます。また、私たちに生き方のモデルを実例を交えて教示してくれます。現実社会の中では、偶然にしか出会えないような貴重な出会いを決して裏切ることなく与えてくれる本に、そしてその著者にいつも感謝しています。私はその本の住処である図書館を大切にしたいと思っています。

(教職大学院)

学校現場の図書室の現状について 藤代 正倫

年明け早々メールボックスを開けたところ、原稿依頼の文。しかも、テーマが図書館にまつわるもの。私にとって一番縁遠いテーマでした。改めて、図書館を利用したのはいつ頃だろうかと考えたぐらいです。学生時代、卒論を書くために大学の図書館や国会図書館(2～3回だけでしたが)を利用したものの教員になってからは公立の図書館をほとんど利用することはありませんでした。教育センター内の蔵書で十分要が足りたからです。

私は昨年の3月まで中学校現場で36年間過ごしてきました。どんな学校にも必ず図書室(図書館と呼ぶところもあります)があり、多くの生徒が利用し、本に親しみ、読書をとおして、まだ見ぬ世界に胸をときめかせ、将来への「夢」を育て、心の世界を広げています。しかし、学校現場での図書室の充実が図られるようになったのは、つい最近のことです。私が教員になった昭和50年から平成9年頃までは、公費での図書予算はあまりにも少なく、PTA会費の中に図書費の項目をつくり、集金したお金で図書室の本を購入していた時代でした。大規模校では予算も多く、蔵書を増

やすことができたものの小規模校ではなかなか充実させることは困難でした。このような中、確か市議会で問題になり、PTAから「図書費」や「視聴覚費」などを徴収するのは、公立学校の精神に反するのではないかと、公費のみで充実を図るようになりました。また、図書室の本の整理なども担当教師に任せられる有様でした。

現在は、図書パート職員2名(1名が月・水・金、他1名が火・木を担当し、勤務時間は4時間)が各学校に配置され、図書カードの作成や本の貸出、図書室内の掲示などにあたっています。図書予算を見てみますと、生徒数が600名程度の学校で、100万円ぐらいです。生徒一人あたりの図書費は、年間1600円程度ですが、これでも昔から見れば良くなったのです。少ない予算ではありますが、本の購入希望を生徒から取ったり、子供達に読ませたい本を保護者から取ったり、また図書室を地域の方々に開放したりしながら「地域と一緒に歩む学校」を目指し努力しています。大学の図書館とは雲泥の差があります。

(教職大学院)

『私と図書館』

豊かな時間

小 畑 千 尋

私は子どもの頃、仙台に住んでいました。《荒城の月》の作詞者である土井晩翠の卒業した立町小学校が母校です。仙台に居たのはわずか3年間でしたが、私はこの街を非常に気に入っていました。特に立町小学校から自宅までは、かなり魅力的な通学路でした。

現在仙台メディアテークにある市民図書館は、当時西公園にあり、学校帰りによく立ち寄ったものです。西公園にはプラネタリウムもありました。仙台二高の前では、応援団の学生でしょうか。擦り切れた学帽をかぶり、わざわざ着古した学ランを着て、「ランコロ」と高下駄の音をたてながら歩くバンカラ風の高校生を毎朝見かけました。県立美術館は完成したばかりで、東北大の川内キャンパスは子どもにとって遊び場でした。いま思い返してみても、なんて豊かな環境だろうと思います。父の転勤に伴い小学校卒業と同時に千葉に移りましたが、いつかまた仙台に住みたいというのが私の夢でした。

そして昨年1月に宮教大に着任し、その2か月半後に今回の震災が起きました。5月に大学が再開してから、私自身は全く余裕なく、附属図書館にも、情けないことにその時々目的の文献を探す以外は、ほとんど出向くことができませんでした。

ようやく夏休みの終盤、休み中でまだ学生もまばらなころ、初めてふらっと附属図書館に入りました。興味の趣くままに書架を眺めたり、最新号の雑誌を開いてみたり、「学生のお薦め本」を手にとってみたり、あっという間に時間が過ぎていきました。たくさん本を抱えて図書館の自動ドアを出てから、思わず空を仰ぎ、深く息を吸いこみました。必要な本を図書館で探すだけでなく、探していた本とはまた違う本と出会う。そんなゆとりある時間が、どれほど贅沢で幸せなことかと感じました。

(音楽教育講座)

アナログ的な出会いを求めて

佐 藤 哲 也

私は17世紀ピューリタンの子育てについて研究しています。日本では私一人しか研究していないので、いわゆる“第一人者”です(笑)。しかし、マイナーな研究テーマなので、資料探索には苦労も多いです。これまで様々な図書館のお世話になってきました。

「紹介状」を携えて見知らぬ図書館に足を運ぶのは楽しい経験です。いろいろな発見やハプニング、出会いがあるからです。特に大学図書館は、各校の伝統やスクール・カラーを反映していて、興味深いです。自分もその大学の学生になったような気分になれます。

中世以来の伝統を感じさせるケンブリッジ大学図書館では、その荘厳さに圧倒されました。ハーバード大学ワイドナー記念図書館では、立ち入り禁止区域に踏み込んで警報を鳴らしてしまいました。ボストン大学図書館では、様々なエスニシティの若者たちと席を並べて勉強しました。聖心女子大学の図書館では、便意を催して困り果てました。それぞれよい思い出です。

現在は図書館を徘徊するよりも、ネットワークを利用してピンポイントで資料収集することが多くなりました。オンライン検索では、キーワードさえ入力すれば、自宅や研究室にいながらにして24時間、情報にアクセスできます。便利な時代になったものです。

しかし、天文学者のストールは「知識というものは、時間をかけて苦労しなければ身につかない」(『インターネットはからっぽの洞窟』243頁)と警鐘を鳴らしました。図書館に足を運び、埃にまみれて書棚を漁ることも必要です。多くの文献をひっくり返したり、ボ〜っと書棚を眺めているうちに、意外な情報に邂逅することがあるからです。そんな出会いによって、疑問が氷解し、研究が進むこともめずらしくはありません。

どんなにインターネットや電子書籍が普及しても、アナログ的な出会いに期待して、私は図書館に足を運び続けることでしょう。

(幼児教育講座)

平成24年度 図書館開館カレンダー

4月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

10月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

5月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

11月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

6月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

7月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

1月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

8月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28		

* 8月から9月にかけての土・日曜日は特別開館を行います。
* 8月中旬の大学一斉休業時には閉館します。日程が決まり次第お知らせします。

9月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

3月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

* 8月から9月にかけての土・日曜日は特別開館を行います。

開館 9:00～22:00

月曜日～金曜日 9:00～22:00

開館 10:00～17:00

土曜日・日曜日 10:00～17:00

開館 9:00～17:00

月曜日～金曜日 9:00～17:00

休館日

国民の祝日・本学創立記念日(10/18)・年末年始・本学学位記授与式当日・入試実施日

注1：平成25年1月19日～20日は大学入試センター試験のため休館します。

注2：平成25年2月25日～26日は前期日程試験のため休館します。

注3：平成25年3月12日は後期日程試験のため休館します。

注4：その他の臨時休館または開館時間を変更する場合は、その都度掲示等によりお知らせします。

編集委員

附属図書館運営委員

小塩さとみ（音楽教育講座）

安藤 明伸（技術教育講座）